

《優秀賞》

よし、勉強しよう

大阪府 大阪府立水都国際中学校 1年

おのみなと
大湊 舞奈

私の住む大阪市には人気のテーマパークがある。アニメやハリウッド映画を題材にしたショーやアトラクションが楽しい施設だ。その中でも私のお気に入り映画「ウォーターワールド」のショーである。幼いころから何度も観覧しているけれど、実は映画本編は今回初めて観た。なにこれ、思ってたのと違う。

私の正直な感想だ。明るいキャストが派手な演出で楽しませるショーとは違い、映画は人々がコップ一杯の飲み水を必死に求めるような暗い世界だった。

「こんな世界、絶対にイヤや」と言う私に「現実でも十分な水が飲まれへん人なんていくらでもおるやん」と母。そうかもしれないけど、現代ではそれはほんの一部の地域の話でしょう。そんな私の考えを察したのか母に「自分で調べてみ」と言われてしまい、少々面倒に思いながらパソコンを開いた。

調べた結果は私の想像と大きく異なっていた。まず水道水が安全に飲める国がたったの12カ国しかないことに驚いた。そして水道すらない環境で生活している人は6億人以上もいる。更にその中には水汲みの為に毎日数十km、数時間を歩く過酷な生活を送っている人達がいる。次々と画面に映し出される数字と画像に私は言葉を失った。

いや、本当は私は知っていたはずだ。学校でSDGsについて教わったし、そういうえばテレビで水を運ぶ子どもを見たこともある。けれど教科書やテレビの向こうの世界は距離も、私の生活とも遠く、どこか映画のような作り物の世界みたいに感じていたのだと思う。だから、知っているようで何も知らなかった。私と同じ年頃のある女の子は、毎日8時間も重い水を運び炎天下を歩くそうだ。私は恥ずかしいような苦しいような気持ちになった。そして、それを打ち消すように調べを進めた。

水汲みに時間も体力も奪われ、学校にすら通うことのできない子ども

達がいる。そうして苦勞して手に入れた水は茶色く濁っており、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水だ。水を飲まなくては生きていけないがこの水を飲むことによる下痢や嘔吐で多くの子どもが命を落としてしまう。その数、毎日800人以上。こんなに悲しいことがあるだろうか。

水そのものが不足している地域があることは私にもたやすく想像ができる。地形や気候のせいだ。では、命を奪うほど水が汚れているのはなぜだろう。いくつかの原因の一つに下水道の未整備がある。

生きるために必要な物と言えば、まず食料と水だと考えてしまいがちだが、同じくらい大切なものがトイレだ。食べて飲めば必ず排泄する。下水道のあるトイレが無ければ野外に排泄するしかなく、結果として土壌や池、川の水を汚染してしまう。飲み水とは全く別な問題のようであり、実はひと続きの問題なのだという。

さて、問題はここからだ。現状を改善するために私は何ができるのだろうか。現地では企業や支援団体が水汲み場設立や井戸再生事業に取り組んでおり命を支えている。これに協力したいけれど、お小遣いからの微々たる寄付くらいしかできそうにない。いや、今すぐ形になる何かができなくても良いじゃないか。今日、私は水問題を「知る」ことができた。それは「自分で調べて考えた」からだ。

ほんやりと先生の話やニュースを聞いてはだめだ。問題に気づいて自分から向き合わなくてはいけない。そして知識を深め、できることを探していこう。ありきたりだけど日々しっかりと勉強に取り組もう。そうして力をつければだんだんと形ある支援にも関わってゆけるはずだ。よし、勉強しよう。